

令和４年度 家庭基礎 シラバス

科目名	家庭基礎	単位数	2 単位	対象 部・年次	1・2・3 部 2 年次
使用教材					
教科書等	『家庭基礎～自立・共生・創造～』（東京書籍）			副教材	なし
学習の目標					
① 「健康・衛生・安全」という視点から、生活に関する基礎的・基本的な考え方・取り組み方を習得する。 ② 家族とのきずなを大切にするとともに、地域の人たちとの連携を通して、共に生きることの大切さを知る。 ③ 生活の中で自分を見つめ直し、「生きがい」を持って、自分らしく生きることができるようにする。					
学習計画					
学期	学習内容			学習のねらい	
前期	人の一生と家族 ①人生ってなんだろう ②青年期の課題 ③家族って何だろう ④家族と社会のかかわりは 保育 ①赤ちゃんはなぜかわいい ②こどもはどう育つのだろう ③親になるとはどういうことか ④こどもを取り巻く環境は 衣生活 ①なぜ服を着るの ②衣服の成り立ちと性質を考えよう ③衣服はどのように管理する ※被服実習 高齢者 ①社会はどう高齢化するのだろうか ②超高齢社会の課題 ③高齢期ってどういう時期 共生社会 ①共生ってなんだろう ホームプロジェクト・学校家庭クラブ			人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題を理解する中で、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たすことに関心を持ち、行動ができるような態度を身につける。家族の意義について考え、今ある家族に関する問題を理解し、家族の在り方の変化が人々に意識の変化をもたらしていることを理解する。こどもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解し、保育全般について、自分が将来どのように関わることができるかを想像することができるようになる。子どもを取り巻く現代の問題に目を向け、その原因や理由、命と真剣に向き合う姿勢を身につける。 自分の衣生活を見つめ直し、衣服選択・管理において適切な判断ができるようになる。衣服の品質表示を見て購入や洗濯するなど、家庭での衣生活で活用できる知識を身につける。 「高齢者」を、自分の将来像として考えることを通して、高齢者福祉の仕組みやあり方を理解する。高齢社会に求められる福祉の在り方を理解し、関心を深める。 生活の問題・解決点を日頃から気に留め、その改善方法を考え実践する力を培う。	
	後期	消費生活 ①何をどうやって買う？ ②自立した消費者とは ③家計はどう管理する④暮らしに必要なお金は 食生活 ①食生活を見つめてみよう ②食品の選択と取扱い③献立づくりと調理 ※調理実習 住生活 ①だれが暮らすのだろうか ②どのように暮らす③これからの住生活 環境 ①生活をみつめてみよう ②環境のためにできることって			現代の消費生活と情報社会との関連を知る。消費経済における生活情報の取捨選択をするための必要な知識を身につける。 食生活の基本は栄養のバランスを取ることであることを理解し、栄養素の働きなどの栄養学について理解し、自分や家族の食生活を取り入れることができるようになる。現代の食生活の問題点を知り、その問題について解決する方法や知識を身につける。 住居に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を送ることができる。 自分の消費行動と環境とのかかわりを意欲的に考える。
観点別評価及びその配点					
観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
趣旨	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。		人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業への取り組み、授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。		プリントの記載内容 授業内容を適切にまとめているかななどを評価する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。
配点 (pt)	150		100	150	600
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。 2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。 3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

令和４年度 フードデザイン シラバス

科目名	フードデザイン	単位数	2 単位	対象 部・年次	1・2・3 部 4 年次
使用教材					
教科書等	教育図書「フードデザイン」			副教材	なし
学習の目標					
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。					
学習計画					
学期	学習内容			学習のねらい	
前期	第1章 健康と食生活 ①食事の意義と役割 ②食を取り巻く現状 第2章 栄養素・食品の特徴 ①栄養素のはたらき ②健康に必要な栄養素 ③消化吸収の仕組み 第4章 調理実習 洋風の献立			・食べることは生きるための意味合いだけでなく、様々な意味があることを理解し、食事と団らんの重要性を知る。 ・私たちの栄養の摂取状況について知る。また、食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身につけ、自分なりの考えを確立する。 ・食物摂取の必要性や、健康を維持するために必要な栄養摂取量、ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。 ・各栄養素の種類と栄養的な意義、それらの栄養素を含む食品について知り、各栄養素の代謝経路と役割を理解する。各栄養素の必要性を理解し、バランスよく摂取する重要性を理解する。 ・食品に含まれる栄養成分が、体内で消化・吸収される過程を理解する。	
	第2章 栄養素・食品の特徴 ⑤食品の加工 ⑥食品の選択と取扱い 第3章 調理と献立 ①調理の基本 ②ライフステージと食事計画 ③献立作成 第5章 豊かな食生活をつくる ①国民運動としての食育の推進 第4章 調理実習 和風の献立 中華料理献立			・身の回りにある加工食品を知り、加工の方法や目的を理解する。 ・食品に記載された情報の正しい見方を知り、食品選択に役立てることができるようになる。また、食中毒の危険性について知り、正しい予防ができるようになる。 ・現代の食生活を見直すために、食育の大切さを理解する。また、地域ごとの取り組みについて学ぶ。 ・調理は食品を食事の目的に合うようにつくりかえることであることを理解する。調理器具や調理の方法を知ること、実際の調理をする前の下地作りをする。 ・年齢や性別、運動量などによって、必要とされる栄養素に違いがあることを知り、ライフステージごとの特徴を理解する。	
観点別評価及びその配点					
観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
趣旨	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。		自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。
評価の方法	出席状況、授業への取り組み、授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。		プリントの記載内容 授業内容を適切にまとめているかななどを評価する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。
配点 (pt)	150		100	150	600
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。 2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。 3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

令和 4 年度 子どもの発達と保育 シラバス					
科目名	子どもの発達と保育	単位数	2 単位	対象 部・年次	1 ・ 2 部 3 ・ 4 年次選択
使用教材					
教科書等	実教出版「子どもの発達と保育」		副 教 材	なし	
学習の目標					
①乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ②乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。					
学習計画					
学期	学習内容	学習のねらい			
前期	[子どもの発達の特性] ①発達と乳幼児期の意義 ②発達と保育環境 ③児童観と発達観 [子どもの発達の過程] ①子どもの発育 ②子どもの精神発達 ③人間関係の発達 [子どもの生活] ①生活と養護	人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。乳幼児期は、親を中心とした身近な人との関わりにより心が安定し、考え方・感じ方・行動の仕方などが発達していくことを理解する。児童観・発達観は時代背景などにより変化していることを理解する。子どもの人権が保障されるようになった経過を理解する。 胎児の発育について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。乳幼児の身体発育の特徴と傾向を理解する。乳幼児の生理的特徴を学び、養護の重要性も理解する。発育の評価方法を学び、さらに乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。発達における方向性や順序性の共通性を理解する。精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。精神発達のためには、外界からの刺激、特に保育者からの働きかけと意欲を高める環境づくりが大切であることを理解する。家族や友達など多くの人との関わりによって人間関係を広げ、自立し社会的な態度を身につけていくことを学ぶ。 乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促すうえで、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解する。			
	②子どもの遊び ③生活習慣の形成 ④健康管理と事故防止 [子どもの保育] ①保育の意義と重要性 ②家庭保育と集団保育 ③保育の方法 [子どもの福祉] ①子どもの福祉 ②子育て支援	乳幼児は遊びを通して発育・発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びをはたらきかけることの大切さを学ぶ。 生活習慣形成の意義と重要性を理解し、乳幼児の個人差に配慮することを学ぶ。それを身につけるためには、家族や保育者の援助が必要なことを学ぶ。 日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保育者の役割を理解する。乳幼児の病気の特徴や定期健康診査、予防接種などについて理解する。家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長発達に両方が必要であることを理解する。幼稚園と保育所・認定こども園について学び、集団保育の課題について理解する。 保育者は乳幼児の発達過程を見通し、活動の場面や個々の乳幼児に応じてさまざまな役割を果たす必要があることを理解する。児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、時代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する。児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解する。児童を取り巻く環境の変化や子育て支援の現状を知り、子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解する。			
観点別評価及びその配点					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
趣旨	子どもの身体的・精神的発達や保育に関して、関心を持ち、それらを意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け、子どもの発達、行動、感情、生活などについての理解を深めることができる。これらに関する自身の考えを、レポートや研究発表などで表現できる。	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く問題について推測・考察ができる。	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。	
評価の方法	授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	プリントの記載内容 授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	講義以外にも実習などを行い、毎時、記録していく。 定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	
配点 (pt)	100	100	200	600	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。 2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。 3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

令和４年度 ファッション造形基礎 シラバス

科目名	ファッション造形基礎	単位数	3 単位	対象 部・年次	1・2 部 3・4 年次選択
使用教材					
教科書等	実教出版「ファッション造形基礎」		副教材	自作プリント	
学習の目標					
①被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得する。					
②ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	[衣服の構成] ①人体と衣服 ②立体構成衣服と平面構成衣服 [基礎縫いの技法] 家庭科技術検定被服製作 4 級受験 [洋服の製作] ①製作の基礎 ②アウターパンツの製作		着心地のよい衣服をつくるためには、人体の構造や機能、動作時の変化に対応してゆるみ、性別や年齢による体型の変化等を考慮しなければならないことを理解する。 被服の構成には、立体構成と平面構成の 2 つがあることを理解する。 2 つの構成の類似点と差異について理解する。立体構成の代表として、洋服、平面構成の代表として和服の構成の特徴を理解させる。 採寸法について理解する。 簡単な洋服の製作を通して立体構成衣服についての理解を深め、基本的な知識・技術を習得する。 洋服の縫製に関する基礎的な事項を理解し、基本的な理論や技法を習得する。		
後期	[衣服の素材] ①衣服素材の種類 ②衣服素材の性能と選択 [和服の製作] ①製作の基礎 ②じんべいの製作		衣服材料の種類と特徴について理解し、製作する被服のデザインや着用目的に合った衣服材料の適切な選択と取扱いができるようにする。 簡単な和服の製作を通して平面構成衣服についての理解を深め、基本的な知識・技術を習得する。 平面製図について、胴部原型・袖原型・スカートまたはズボン原型があることを理解し、基礎的な理論や技法を習得する。縫製に関する基礎的な事項を理解し、基本的な理論や技法を習得する。 和服の縫製に関する基礎的な事項を理解し、基本的な理論や技法を習得する。		
観点別評価及びその配点					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
趣旨	衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むと共に、衣服を創造的に製作する態度を身につけている。	衣服の構成・材料及び製作に関して、自分の嗜好や家族の要求との関連をみつけることができる。衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断する力を見つけている。衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫をいかし表現することができる。		衣服の構成に関する実習や製図の実習、材料に関する実験などを通じ必要な技能を取得している。製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身につけている。	衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につけている。
評価の方法	授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。プリントの記載内容 授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。 講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。		講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。評価の観点のうち、思考・判断のほか、作品の仕上がりの状態に関する配分が大きい。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。
配点 (pt)	150	150		200	500
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。					
2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。					
3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

令和４年度 ふるさと手芸 シラバス

科目名	ふるさと手芸	単位数	1 単位	対象 部・年次	1・2部2年次～4年次自由選択科目	
使用教材						
教科書等	なし			副教材	自作プリント	
学習の目標						
手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。						
学習計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
前期	オリエンテーション 手芸技法・材料について 作品づくり(全員共通作品を製作) ○フェルト小物作り ○パッチワーク ○「刺し子」 刺し子の基礎知識を理解・技法習得 (刺し子の材料・刺し方と糸の始末など) ○播州織の布地を使った小物作り			手芸の基本を学ぶ 文化祭やキルト展で展示する作品を作る。 パッチワークをすることで、手縫いの基礎的な技術を確認する。 自分でデザインをしたもので「刺し子」コースターを作る。 日常に役立つ小物を作る。		
	作品づくり(全員共通作品を製作) ○刺繍 刺繍の基礎知識を理解・技法習得 ○編み物 作品づくり(自由作品を製作) 基礎をいかした作品を製作。			刺繍の様々な技法を学ぶ。 編み物の様々な技法を学ぶ。 日常に役立つ小物を作る。		
後期						
観点別評価及びその配点						
観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
趣旨	作品を創造的に製作し、服飾に活用することができる。		製作する手芸品に適切な材料・素材選びをして、刺繍などの様々な技法をいかして製作することができる。		各種の手芸の技法を活用して想像力を働かせて手芸品を製作する。	手芸に関する知識と技術を習得し、理解する。
評価の方法	出席状況、授業への取り組み、授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。 定期考査(7月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。		プリントの記載内容、授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。 定期考査(7月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。		講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。 定期考査(7月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。 実技テストを行う。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。 実技テストを行う。
配点(pt)	150		150		200	500
評価						
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。						
学習のアドバイス等						
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。 2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。 3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。						

令和４年度 生活文化 シラバス

科目名	生活文化	単位数	2 単位	対象 部・年次	3 部 3 年次
使用教材					
教科書等	なし		副 教 材	自作プリント	
学習の目標					
①「生活の中で見つける文化」という視点から、総合的な考え方・取り組み方を習得して視野を広げ、生活の充実をはかる。					
②家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、消費生活などについての基礎的な理解と技能を養い、それらを活用する実践的な態度を育成する。					
③自分らしい生活観・価値観を創造していく中で、自分の個性に合ったライフスタイルをつくる。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	[自立するとは] ・青年期の課題 [仕事と生活を考える] ・消費生活 ・社会保険制度 [衣生活] ・衣服の機能 ・衣服の手入れ ・衣服の保管 ・播州織を使った小物作り		○自身の生活を見直しながら、青年期における発達課題や、課題の解決によりそれを達成していけるか考える。 ○生涯を見通した生活設計の重要性について理解する。 ○仕事と自分の生活を結びつけて考え、社会の中で生きていく自分を創造し、生活に必要なスキルを身につける。 ○社会で起こっている生活に関する様々な現状について理解する。 ○小物作りによって裁縫の基本的な知識、技能を身につけ、播州織を使用することによって地域の文化を理解する。		
後期	[住生活] ・住まいの役割 ・安全に暮らすために ・健康に暮らすために [食生活] ・栄養と食品 ・日本の食生活 ・食品を選ぶ		○自分たちがふだん暮らしている「住まい」にはどのような役割があるかを理解し、ライフスタイルやライフステージによって変化することを学ぶ。 ○日本の住宅の今を知り、安全で健康な暮らし方を考える。 ○食についての基本的な知識を身につけ、生活の中でどのように生かしていけるのかを考える。 ○調理実習などを通して、生活の中で実践的に活用していける技能を身につける。 ○実習により、調理の基本的な知識と技術を身につける。		
観点別評価及びその配点					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
趣旨	自身の現在の生活やこれからの生活について関心を持ち、その充実向上をめざして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	自身の現在の生活を見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	自身が生活していく中で必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。 生活課題を解決していける能力を持っている。	人の一生と家族、こどもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。	
評価の方法	授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。	プリントの記載内容 授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。	講義以外にも実習などを行い、毎時記録していく。 作品製作の進捗状況、仕上がりの状態を評価する。	定期考査(5月・7月・10月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて問題を出題する。	
配点(pt)	100	150	150	600	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 日常生活の中で課題をみつけ、問題解決にむけて意欲関心を持つこと。 2. 疑問に思ったことを確かめようという態度を持つこと。 3. 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。					

令和 4 年度 服飾手芸 シラバス

科目名	服飾手芸	単位数	2 単位	対象 部・年次	3 部 自由選択科目	
使用教材						
教科書等	なし			副 教 材	自作プリント	
学習の目標						
1．手芸の種類、特徴、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。						
2．西脇の地場産業である播州織などを使用し、地域の文化に触れる。						
学習計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
前期	基礎縫いの技法 被服材料の理解 手芸品の製作 ・ 刺し子 ・ フェルト小物			○手縫いの基礎を学ぶ。 ○繊維・糸・布について理解する。 ○裁縫に必要な道具の名称を知る。 ○刺し子技法をやる。伝統文化にふれる。 ○小物作品を制作し、技術を習得する。		
後期	服飾材料としての各種手芸の技法 手芸品の製作 ・ 日常に役立つ小物作り ・ 様々な刺繍の工夫			○手芸の様々な技法を学び、生活の中で実践的にいかしていけるようにする。 ○日常に役立つ小物を作る。 ○作品を製作し、さらに技能を習得させる。		
観点別評価及びその配点						
観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
趣旨	服飾手芸に関心を持ち、手芸品製作に意欲的に取り組むと共に、実践的な能力を身につけている。		手芸品についての技法や特徴を理解し、自分自身の生活の中のファッションデザインに生かす能力を身につけている。		各種手芸に必要な基礎的・基本的な技能を身につけるとともに、自分らしさを表現できる。	各種手芸の基本形や文化・技法に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価の方法	授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度などで判断する。		講義を行い、プリントの記載内容、授業内容を適切にまとめているかなどを評価する。		作品制作の進捗状況、作品の仕上がりの状態などを評価する。	定期考査(7月・12月・学年末実施) 学習内容に合わせて実技テストを実施する。
配点 (pt)	200		150		150	500
評価						
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。						
学習のアドバイス等						
1．積極的、主体的に実習等に取り組む。						
2．安全などに注意し、道具や器具、材料の取り扱いに注意する。						
3．心をこめていねいに、最後まで作品を製作する。						